

⚠ 仏壇から発生した火災が続いています ⚠

令和2年11月、交野市内において、1カ月間の火災件数は2件でした。

2件の火災は、いずれも仏壇周りで使用する火気が原因でした。

全国的にみても令和元年1月～12月の1年間の灯火による火災は427件も起こっています。（※総務省消防庁防災情報室より）

灯火による火災の原因の多くは、仏壇・神棚で日常的に使用されているロウソクや線香によるものです。それらはちょっとした不注意で火災要因となることがほとんどです。

ここで仏壇周りにおいての火災になる可能性のある3つの危険ポイントを紹介します。またご自宅の仏壇回りが安全であるか、それぞれの対策にチェック☑してみてください。



3つの危険ポイント

離れる

倒れる

燃え移る



1. 離れる

- ロウソクや線香に火をつけたまま、その場を離れない
- 離れる場合は、火の始末をする

2. 倒れる

- 燭台は安定したものを使う
- ロウソクはまっすぐしっかり安定させる
- ロウソクや線香の長さはできるだけ短いものを使う
- 扇風機などの機器の風が当たらないようにする

3. 燃え移る

- 仏壇の中は整理整頓する
- 周囲の物を火に近づけすぎないようにする
- 衣服への燃え移りに注意する

対策をチェック
して安全に



知っていますか？

「火のついたろうソクの芯が飛ぶ」

このような現象を聞いたことがありますか？

実は、過去にこの現象が原因となった火災事例があります。

どうして飛ぶの？



水分が付着した状態の燭台でろうソクを使用すると、溶けた高温のろうと水分が接触して瞬間的に気化し、空気が膨らむ力で芯が飛び上がる可能性があります。



燭台に水分が残ったままろうソクに火をつけると非常に危険です。

燭台を水洗いした後は必ず乾いた布などで水分を拭き取り、ご使用ください。

また、火を使わない LED を使用したろうソク・線香を使用することや、座布団などの仏壇周りのものを防炎性にするのも防火対策の一つです。
身の回りの大切な命や財産を火災から守りましょう。

